令和3年度　分掌チャレンジ　目標

令和3年度			分　掌等　名	教頭、首席、教務部、生徒指導部、進路保健部、人権・道徳教育推進委員会、生徒支援委員会
学校経営計画			10月　中間報告	
基礎学力の定着	「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる授業づくりと環境づくり	ICTや視聴覚教材を取り入れ、分かりやすい授業を行う。	・調べ学習としてICT機器を利用したり、欠席した生徒に欠席分の内容を動画で補うなど新しい取り組みが広がっている。 ・教職員向け研修予定していたが延期となっている。オンライン授業も視野に入れたICT機器の取り扱いを周知していく。	
		規則正しい学校生活を通して、授業規律を確立し、学習環境の充実を図る。	・年度始めに携帯指導のマニュアルや授業規律を全教員が再認識する機会を設けることができた。 ・今現在、授業妨害での特別指導件数は0件であるが、度々注意をしなければならない生徒が一定数いるため、今後も粘り強く指導していく。 ・中抜け、無断早退の指導を強化している中で、時に反発が起こるものの、全教員の協力により、少しずつではあるが生徒たちの変化を感じ取れている。	
		生徒の認知能力を把握し、個々に応じた授業内容・教材の工夫を行う。	・授業時間に行うコグトレに関しては生徒に浸透し、生徒も意識高く取り組んでいる。効果測定については学年末に行う予定。 ・国数英の展開に加え、本年度は渡日生に対し現代社会での抽出、生物基礎、基礎国語、保健での入り込みも行い、対象生徒の学習のサポートを行っている。	
	図書館の利用促進	図書館の利用を促進し、本に触れる機会を増やす。	・図書室での授業実施（学年でのキャリア教育・総合探究）や、授業内容に関連する蔵書の紹介などを行い、図書室利用の推進に努めている。 ・図書室の利用者数は前期で延べ751人（昨年度が620人）	
自尊感情の育成	人としての倫理観や規範意識の向上	互いを認め、ともに高め合う人間性を育成する。	・前期の人権学習の機会は1年が4回、2年が2回、3年が2回、4年が2回で計画通り実施できた。年度当初より、まん延防止等重点措置適用及び緊急事態宣言の発令を受けて、クラブ活動の休止や遠足の中止が決定する中、体育祭は実施することができた。今後も学校行事等の特別活動及びクラブ活動を中核的な指導の機会とし、１人でも多くの生徒が、互いを認め、ともに高め合う人間性を育めるよう、具体的な取り組みを教職員一丸となって継続していく。	
		命の大切さ、善悪の判断等について指導する。	・4月26日（月）の人権・道徳教育推進委員会で策定した令和3年度の人権学習計画を運用中である。今後も公民科を中心に各教科で行われる授業を具体的な指導の機会とする。 ・命の大切さや人権・道徳にポジティブな教育活動を実現するため、「LGBTsの生徒理解と支援」や「同和問題に関する校内研修」といった教職員研修を実施し、学校教育自己診断（生徒）の「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率80%をめざしている。	
	コミュニケーション力の向上	挨拶のできる生徒を育てる。	・生徒の登校時には、門当番の教員だけでなく、多くの教員が門に立ち、挨拶と声かけを行うことで、生徒が自ら挨拶をしやすい環境づくりができている。また、あくまで感覚的なものとなってしまうが、生徒たちが自ら挨拶をしてくれることが日に日に増えている。	
		学校行事を積極的に参加できる環境をつくり、人と関わる喜びを体験させる。また、体育祭や文化祭等の行事において、保護者や地域、中学校教員と積極的に連携を図る。	・今年度の体育祭は、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止による制限が多くある中で、生徒会や体育祭の主担教員の努力により、生徒会の生徒たちを中心とした、行事の企画運営ができた。今後も生徒たちが主体的に参加、活躍できる行事をめざしていく。 ・６月に実施した体育祭の生徒参加率は、64.7%であった。10月に実施予定の文化祭でも、高い参加率を維持したい。 ・今年度の体育祭は、保護者のみの入場規制をかけた招待となり、38名の来場者数であった。文化祭でも同じく入場規制をかけたうえでの招待となる見込みであるが、その中でより良い交流機会となるように最善を尽くしたい。	
	家庭・中学校・地域との連携強化	必要な情報を速やかに発信し情報共有を密にすることにより、学校、家庭、中学校、地域が一体となり、教育活動を進める。	・９月末の時点で、HP月平均2回の更新、保護者向け寝屋定メール月平均3回の送信を実施している。また、コロナ対応の保健室からのプリント等、配付し、意識を高めている。今後も続けていきたい。	
		ボランティア活動を継続する。	・ボランティア清掃への参加者数は、５月実施が50名、７月実施が29名であった。今後の開催予定である10月、12月でも多くの参加を積極的に促し、ボランティア意識を高めさせたい。	
	課題を抱える生徒への支援体制の充実		今年度より生徒支援委員会と名称変更し、多様な支援を必要とする生徒に対し組織的に対応するため、業務の整理を行っている。 （1）認知機能を強化することで学習の基盤を作り、コミュニケーション能力を向上させる。（新1年生） ・英数国体美5科目において1日に一度はネヤトレを行い、生徒に定着している。 ・4月当初に認知力測定テストを行い分野別評価を行った。年度末に同じテストをもう一度行い、効果を測定し検証する。 （2）さまざまな困難に直面している生徒に対し、教員だけでなく外部人材も活用し、支援する。 ・月に1回の教育相談会議で、4月から9月まででのべ43件の生徒情報を共有し、必要に応じてSケース会議を行った。 ・SSWには外部機関の紹介・繋げる役割として、生徒・保護者との面談を実施予定である。 ・SCによるカウンセリングを5月から9月の4回で、のべ8名実施し、学年・担任と情報を共有している。 ・介助員を活用し、障がいのある生徒が安全に学校生活を送ることができている。 ・学習支援員を1名を配置し、学力に不安のある生徒だけでなく、クラス全体に支援を行っている。 ・日本語教育の支援がいる生徒に対し、教育サポーターを活用している。1年生では国語・理科・社会において抽出・入り込みの支援を行っている。 ・支援が必要な生徒の進路選択について、SSWとともに担任の相談に応じている。 ・教室外登校の生徒に、オンラインで授業参加をスタートさせ、生徒は教員の話を聞いて学ぶ喜びを感じている様子である。 （3）生徒理解のための教職員研修 生徒支援委員会・人権道徳教育推進委員会・フォローアップCo主催で「セクシャルマイノリティ」をテーマに外部講師を招聘し、講演会を実施した。	
キャリア教育の充実	生徒自らの将来設計について考え、踏み出すことができるような進路指導の充実	進路保健部と担任が一体となって、情報提供を行う。	・生徒と保護者に、就職や進学の情報を説明会や懇談で伝えている。 ・奨学金に関する案内文の配付、ホームページで情報提供、保護者の参加が可能な説明会を実施した。 ・卒業学年の保護者向けの進路説明会を実施。10名参加。 ・進路の手引き(ロードマップ)を更新し、1年生に配付した。 ・各学年に進路アンケートを実施し、進路希望先や就業率を調査した。1月に再調査予定。 ・卒業学年担当者会議で必要な情報の伝達・交換をし、個人情報の流出が起こらないための注意喚起をした。	
		1年次より、進路HRを実施し、進路選択について考える機会を設定する。	・各学年の進路指導目標に対応した進路ガイダンスを実施した。 ・11月実施予定の秋の進路ガイダンスに向け、生徒が希望する講座を受講できるように調整している。 ・卒業学年生徒に対しては、放課後等で個々の希望に応じた個別指導の機会を多く設けている。	
		就業体験、応募前会社見学を充実させ、就職希望者の進路選択を機会を増やす。	・9月5日の就職試験1次応募で24名が応募。10月6日現在で15名が内定した。 ・応募前職場見学は10月6日現在で51社、延べ70名が参加し、昨年度の人数を上回っている。	
学校力の向上	教員力の向上	授業見学・研究授業を実施し、全教員で授業力向上に取り組む。	・全日制の首席と今年度後半で相互の授業見学週間を実施する予定である。	
	職務の効率化	職務の効率化を図り、時間外勤務を減らす。また、年次休暇の取得を促進する。	・月30時間以上の時間外勤務の教員数は、前半期において、月平均2人である。年次休暇の取得も全体的に増えている。	
	コンプライアンス意識の向上	不祥事の防止、職場のハラスメントの防止について、徹底を図る。また、セキュリティーポリシーの徹底を図り、個人情報の管理体制を強化する。	・教育庁からの通達が届く度に、職員会議等で必ず周知徹底を図っている。特に、テスト答案等の返却等、個人情報に関わる内容については、再三、注意喚起をしている。	
	危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底	校内体制組み、マニュアルを作成し、全教員に周知する。	・進路保健部の尽力で防災マニュアルの改編を行い、教職員研修で周知した。	